

エネルギー選択の4つの視点

- 1) 原子力の安全確保と将来リスクの低減
- 2) エネルギー安全保障の強化
- 3) 地球温暖化問題解決への貢献
- 4) コストの抑制、空洞化防止

- 5) 便益享受とリスク負担の不平等性
- 6) 国際平和への貢献
- 7) 合意形成の方法
- 8) ゼロシナリオの実現可能性

1) 原子力の安全確保と将来リスクの低減

- 徹底した安全対策でリスクを最小化
- 使用済み核燃料・放射性廃棄物の発生抑制
- 安全技術・人材の確保と開発が必要

(安藤の考え)

- ・原発を使用する限り、リスクは年々増大する。
- ・ゼロシナリオ以外では、今後60年間リスクが継続
- ・原発過酷事故のリスク・放射性廃棄物をなくすには原発をできるだけ早く廃止する以外に道はない。

2) エネルギー安全保障の強化

- 世界のエネルギー情勢や代替エネルギー確保の見通しは不確実
- エネルギー安全保障やエネルギー源多様化と両立できる形で原発依存度の低減への道筋を具体化すべき。

(安藤の考え)

- ・再生不能エネルギーに依存している限り、エネルギーの安全保障は確保できない。
- ・将来的には、人類は全てのエネルギー源を再生可能エネルギーに依存せざるを得なくなるだろう。

3) 地球温暖化問題解決への貢献

- 原発依存度を下げつつ国内のCO₂排出削減が必要。
- わが国の優れた技術を活用して地球温暖化問題の解決に貢献すべき。

(安藤の考え)

- 再生可能エネルギーへの転換を急ぎ、脱原発と脱温暖化を同時にはかるべき。
- 我が国の優れた省エネ・再エネ技術で脱温暖化・脱放射能汚染に貢献できる。

4) コストの抑制、空洞化防止

- エネルギーコストの上昇による産業や経済への影響
- 産業や雇用が空洞化する事態を回避すべき。

(安藤の考え)

- 安全・安心はお金では買えない。
- 産業グリーン化で経済成長と雇用維持が可能
- 化石燃料のコストの上昇と可給性の低下は不可避。
- 技術革新で再エネコストの上昇は抑えられる。

その他の視点

5) 便益享受とリスク負担の不平等性

便益を受ける地域で発電し、廃棄物を処理すべし。

6) 国際平和への貢献

核兵器廃絶を身をもって世界に宣言すべし。

7) 合意形成の方法

脱原発を遅くとも2030年までとするか、それとも今後40年以上継続するかの二つの選択肢に限定すべし。

8) ゼロシナリオの実現可能性

国と国民がその気になれば、少なくとも原発発電分は2030年までに再生可能エネルギーに転換可能。